

## 第4学年国語科学習指導案

日 時 平成30年9月26日(水) 5校時

児 童 男子11名 女子9名 計20名

指導者 菅原 斉子

1 単元名 読んで考えたことを伝え合おう

教材名 「ごんぎつね」東京書籍 新しい国語下巻P9～30

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領に以下のように位置付けられている。

#### 第3学年及び第4学年「C 読むこと」

##### 1 目標

(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

##### 2 内容「C 読むこと」(1)

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

本教材「ごんぎつね」は、独りぼっちの子狐のごんが、同じく独りぼっちになってしまった兵十と心を通わせようと努力しながらも、通わせ切れない切なさが描かれた作品である。

教材の特徴として、次の2点が上げられる。1点目は、中心となる人物であるごんと、兵十との関係の変容が描かれた作品であるということである。場面の移り変わりに伴って、ごんの兵十への気持ちが変化していく。よって、中心となる人物の気持ちの変化を、ほかの人物との関わりで捉える学習に適した教材と言える。2点目は、視点の変換があるということである。物語の殆どは、ごんの視点から描かれているが、最後の場面で、兵十に視点に移る。そのため、ごんの気持ちのみならず、兵十の気持ちの変化を考えることができる。それにより、物語の結末について、多様な感想を引き出すことが可能であると考えられる。よって、感じ方にはそれぞれ違いがあることに気付く学習にも適した教材であると考えられる。

#### (2) 児童観

児童は、今年度、「こわれた千の楽器」と「走れ」で、文学的な文章の学習を行っている。「こわれた千の楽器」の学習では、場面の移り変わりに伴う人物の様子や気持ちの変化を想像して読み深め、音読で表現する活動を経験している。また、「走れ」では、中心となる人物の気持ちが最も変化した部分をとらえ、キャッチコピーを作る活動を行っている。しかし、本単元の教材のように、中心となる人物とほかの人物との関わりの変容を読むことによって、物語を深く理解する学習をしたことはない。そこで、本単元を通して、関わり合いによって変容していく登場人物の気持ちを読み取る力を身に付けるとともに、読み取りを通して感じることにはそれぞれ違いがある

ことに気付かせ、児童の読む力を高めたい。

### (3) 指導観

本単元を指導するにあたっては、次の3点に留意する。

#### ① ねらいを明確にした言語活動の工夫（視点1）

本単元のゴールは、「読んで考えたことを伝え合おう」である。「ごんぎつね」の読み取りをもとに最後に感想を書き、その感想を交流し合うことを単元の最後に位置付ける。そのために必要な読み取りの要素として、以下の2つを学習に位置付ける。

##### I 登場人物の人物像

##### II 登場人物の他の人物への気持ちの変化

第一次では、「ごんぎつね」を読み、初発の感想を交流させる。一読後の感想は「ごんはやさしい。」「ごんがかわいそう。」「最後に気付いてもらってよかった。」「悲しいお話だった。」などの、表層的な感想にとどまることが予想される。そこで、それらの一読後の感想から、「ごんは、どんなきつねなのか」「ごんはどんな気持ちだったのか」「悲しいお話と感じるのはどうしてか」「このお話の最後をどう思うか」といった、一読しただけではわからないことについて問題意識をもたせる。そして、それらの問題意識の中から、学級で決めたテーマについて自分の考えをもつことが単元のゴールであることを理解させる。また、児童の問題意識から読み取りの要素を抽出し、要素を元に本単元の学習課題を作ることによって、学習に必然性を持たせる。

第二次では、第一次でたてた学習課題に沿って「ごんぎつね」を読み深めさせる。ひとりぼっちな寂しい狐であるごんの、兵十への思いの変容を場面ごとに読み取らせていく。また、最後の場面では、兵十のごんへの思いも読み取る。ごんと兵十の、お互いへの思いを考えることで、第三次で多様な感想が生まれるようにする。

第三次では、第一次で課題意識をもった内容についてテーマを決めて話し合わせる。「なぜ、この話は悲しいと感じるのか」「この話の結末をどう思うか」などの、作品のテーマに関わる問いについてみんなで話し合うことによって、自分の考えを深めるとともに、他者との考えの違いに気付かせたい。

#### ② ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導方法の工夫（視点2）

物語の展開や中心となる人物の変化を捉えるための工夫として、挿し絵の並べ替えを行う。挿絵を使って展開や変化を視覚的に捉えることで、どの児童も、物語で起きた出来事や中心人物の変化を大まかに捉えられるようにする。挿絵の並べ替えを行った後に、場面ごとのキーワードを抽出してお話の図を作る。物語の構造を視覚的に理解したり、場面の移り変わりを全員が理解したりするために用いる。また、人物像を捉えるための方法として「人物マップ」、人物の気持ちの変化を読むための方法として、「顔マーク」「気持ち曲線」を用いる。考えの交流の際には、児童の考えを分類して色分けしたり、発問で考えを焦点化することで、どの児童も考えをもったり、共有したりできるようにする。

③ 児童の振り返りの工夫（視点3）

児童の振り返りは、以下の3つを設定する。

- ア 学習して新たにわかったこと
- イ 友達の発言から学んだこと
- ウ これからの学習でもっと学びたいこと

これらを選んで書かせることで、学んだ達成感と学びの連続性を意識させ、学び続ける態度につなげていきたい。

3 単元目標

物語を読んで、中心となる人物とほかの人物との関わりについて考え、感じたことや考えたことを話し合うことができる。

国語への 関心・意欲・態度	・物語を読むことに興味を持ち、中心となる人物の変化を考えようとしている。
読む能力	・中心となる人物とほかの人物のとの関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化を想像して読むことができる。（読ウ） ・物語を読んで感じたことや考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。（読オ）
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	・表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、その使い方について理解することができる。（伝国（1）イ（オ））

4 単元の指導計画と評価計画（全13時間）

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準
一	1	・「ごんぎつね」の本文を読み、初発の感想を書く。 ・初発の感想を交流し、単元のゴールを確かめる。	<b>関</b> 物語に興味を持ち、中心となる人物の変化を考えようとしている。
二	2 ・ 3	・挿絵をもとに物語の展開をつかみ、キーワードを使って図にまとめる。 ・ごんの行動や気持ちの変化に課題意識をもち、読みの計画を立てる。	<b>読</b> 場面の展開を図にまとめ、ごんの変化に課題意識をもつとともに課題解決のための読みの計画を立てる。
	4	・物語の設定を確認し、中心となる人物の人物設定を読み取る。	<b>読</b> 物語の設定を確認し、ごんがどんなきつねかを読み取り、自分の考えをまとめている。

	5	・場面に起きた出来事確かめ、 ごんと兵十の気持ちを考える。	【読】1の場面から、兵十にいたずらするごんの気持ちと、 ごんに対する兵十の気持ちを読み取り、自分の考えを まとめている。
	6	・場面に起きた出来事確かめ、 ごんの兵十に対する気持ちの変 化を考える。	【読】2の場面から、兵十のおっかあの葬式を見たごんの、 兵十に対する気持ちの変化を読み取り、自分の考えを まとめている。
	7	・場面に起きた出来事確かめ、 ごんの兵十に対する気持ちの変 化を考える。	【読】3の場面から、つぐないを始めるごんの、兵十に対す る気持ちの変化を読み取り、自分の考えをまとめている。
	8	・場面に起きた出来事確かめ、 ごんの兵十に対する気持ちの変 化を考える。	【読】4・5の場面から、兵十と加助のあとをつけるごんの 気持ちの変化を読み取り、自分の考えをまとめている。
	9 本 時	・場面に起きた出来事確かめ、 ごんと兵十の気持ちの変化を考 える。	【読】6の場面から、ごんと兵十の気持ちの変化を読み取り、 自分の考えをまとめている。
三	10 ・ 11	・一次で課題意識をもったテーマ について話し合う。	【読】二次までの読み取りを振り返りながら、自分の考えの 根拠となる叙述を見つけ、テーマについての考えをま とめている。 【言】表現するために必要な語句を増やし、その使い方を理 解している。
	12 ・ 13	・作品についての感想を書き、全 体で交流する。	【読】自分の考えを伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあ ることに気付いている。

## 5 本時の学習

### (1) 目標 (9/13時間)

- ごんと兵十の気持ちの変化を読み取り、自分の考えをまとめることができる。【読オ】

### (2) 本時の評価規準と具体的評価規準

本時の評価規準 (評価方法)	B	努力を要する児童への教師の支援
ごんと兵十の気持ちの変化 を読み取り、自分の考えをま とめている。 (シートの記述内容・発言)	物語の山場から結末における、 ごんと兵十の気持ちの変化を読み 取り、自分の考えをまとめている。	全体の話し合いを通して読み取 った、ごんと兵十の気持ちの変化 を、色分けしながら構造的に板書 する。

(3) 展開

段階	学習活動と学習内容 ☆発問 ・予想される児童の考え	指導上の留意点と評価 (◇) 研究の視点 <b>ユ</b> <b>振</b>
導入 5分	<p><b>1 前時の学習を想起する</b></p> <p><b>2 本時の課題を把握する</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ごんと兵十の気持ちがどう変わったのかを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習を振り返る。</li> <li>・ 単元における本時の学習の位置付けと学習内容を、単元表を使って確認する。</li> <li>・ 感想交流会で自分の考えを発表するための要素である「登場人物の他の人物への気持ちの変化」を考える最後の時間であることを確認する。</li> </ul>
展開 30分	<p><b>3 学習場面を音読し、課題の自力解決を図る</b></p> <p>○ ごんの気持ちが変わるところを考える。</p> <p>☆ ごんの気持ちが変わるところはどこでしょう。</p> <p><b>4 考えを交流する</b></p> <p>○ ごんの気持ちが変わるところを、根拠をつけて交流する。 (ペア⇒全体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前の場面までのごんの気持ちを確認し、「兵十に自分のことを気付いてほしい」という気持ちであったことを確認する。</li> <li>・ ごんの気持ちが変わるところに、サイドラインを引く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ユ</b> 学習内容を精選し、子供達の活動を明確にする。(明確な指示による学習の焦点化)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんの気持ちが変わるところを根拠をつけて説明することを通して、ごんの気持ちが「どう変化しているか」、「なぜ、変化したのか。」についてもとらえさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ユ</b> 考えを比較しながら検討することで、自分の善行が伝わらず撃たれてしまったやるせない気持ちと、自分の行いにやっと気付いてもらったごんの嬉しい気持ちをとらえさせる。(発問による思考の焦点化)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんの気持ちが変わるところを検討することで、ごんの気持ちの変化は、兵十の気持ちの変化によって起こっていることに気付かせる。</li> <li>・ 「ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました」が変化の場所であり、「兵十に気付いてほしい」から、「兵十に気付いてもらった」に気持ちが変わる部分であることを押さえる。</li> <li>・ ごんが一方的に兵十に思いを寄せていた状態から、</li> </ul>

	<p>5 課題に対するまとめを書く</p> <p>○ うなずくごんの気持ちと、火なわじゅうをばたりと取り落とす兵十の気持ちをまとめる。</p> <p><b>Bと捉えるまとめ方の例文</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(ごん) 兵十が気付いてくれて嬉しい。やっとわかってくれた。</p> <p>(兵十) まさかごんだったとは。ひどいことをしてしまった。</p> </div>	<p>兵十の心の変化によって、はじめて二人が心を通わせた瞬間であることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 銃弾に倒れて瀕死のごんを見ている兵十の様子から兵十の後悔する気持ちを読み取る。</li> <li>・ 独りぼっちどうしだった二人が、ようやく心を通わせながらも、ごんが死んでしまったことをとらえさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ユ</b> 児童が話し合いを通して読み取ってきたことをまとめやすいように、ごんと兵十の気持ちの変化を色分けしながら構造的に板書する。(構造的な板書による思考の共有化)</p> </div> <p>◇ごんと兵十の気持ちの変化の理由を読み取り、自分の考えをまとめている。【読オ】(シートの記述内容・発言)</p>
<p>終末10分</p>	<p>6 本時を振り返る</p> <p>○ 本時の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんの気持ちに変化したところを考えたら、ごんひとりがずっと思っていた気持ちが、最後に兵十とつながったことがわかった。</li> <li>・ 兵十と分かり合えてよかったけど、ごんが死んでしまって悲しい。</li> <li>・ 友達との話し合いから、ごんが、兵十に気付いてもらって嬉しい気持ちと、ごんをうってしまった兵十の後悔の気持ちがよくわかった。次は、みんなで決めたテーマについて深く考えたい。</li> </ul> <p>○ 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りの観点に沿って振り返りを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>振</b> 観点を次のように示す。</p> <p>ア 学習してわかったこと</p> <p>イ 友達の発言から学んだこと</p> <p>ウ これからの学習でもっと学びたいこと</p> </div> <p>・ 次時の学習の位置付けと学習内容を、単元表を使って確認する。</p>